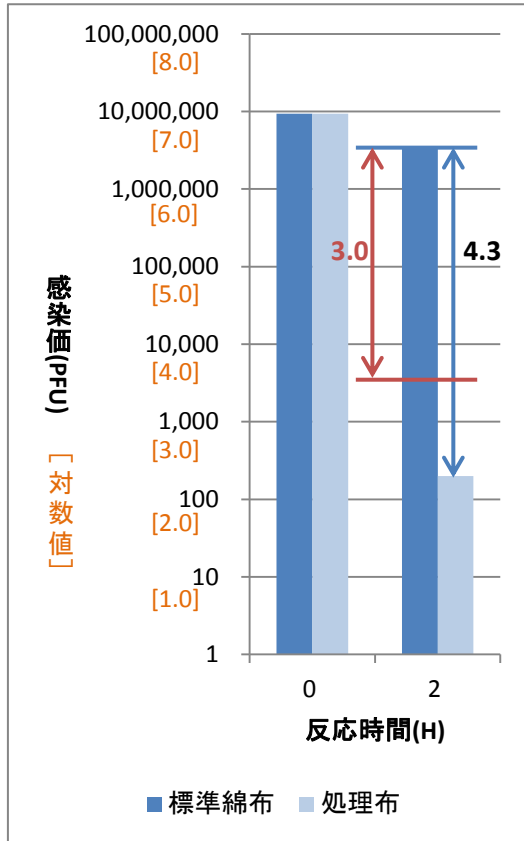


インフルエンザウイルスA

検体	感染価の対数値	
	接種直後	2時間反応後
標準綿布	6.97	6.55
処理布		<2.30



・インフルエンザAについて  
 接種ウイルスの感染価が約9,300,000PFUに対し、未加工の標準綿布の培養後感染価は約3,500,000PFUとやや減少している。一方、処理布の培養後感染価は約200PFUの測定限界値まで減少している。

ISO 18184においては抗ウイルス活性値が3.0以上で十分な効果があると評価される。(左図においては赤線よりも減少していること)  
 今回の処理布は抗ウイルス活性値が4.3以上であるので、十分な効果があるといえる。

接種ウイルス感染価: 約9,300,000PFU  
 未加工の標準綿布の培養後感染価: 約3,500,000PFU  
 処理布の培養後感染価: 約200PFU(測定限界)  
 【抗ウイルス活性値: >4.3】